P－7　小臼歯部に発生した含歯嚢胞の臨床的検討

○加来弘志、古沢ゆかり、横本　満、
上田秀朗、曽我富美雄、木村光孝

九歯大・小児歯

顎口腔領域に発生する嚢胞としては、従来より歯根嚢胞、含歯嚢胞が最も多く現われるといわれている。このうち含歯嚢胞は、歯根嚢胞に次いで多くみられるものである。また、含歯嚢胞は一般的に下顎第三大臼歯、小臼歯部、上顎犬歯部などに好発するとされている。

この中で小臼歯部に発生するものは、原因として先行乳臼歯の状態との関連が示唆されていること、その他に発生年令、自覚的、他覚的症状についても、他の部位に発生するものとは異った特徴を有していると思われる。

そこで今回演者らは九歯大小児歯科に受診し、臨床的かつ病理組織学的に含歯嚢胞と診断されたものの中から、小臼歯部に発生した症例について臨床所見、X線所見などを検討し、興味ある所見を得たので報告する。

P－8　パラチノースに対する意識調査の結果から

○井槌浩雄、浜野良彦、小田　博、
*川井長之

オクト・ピド・グループ
*三井製糖株式会社

甘いお菓子類は、齲蝕発生の大きな要因と言われている。近年、齲蝕誘発能の低い代用甘味料を使用した製菓類が、市場に多く認められる様になってきた。

演者らは、砂糖に甘味が酷似し、安全性に問題がなく、非齲蝕誘発性代用甘味料の天然成分『パラチノース』に特に注目し、臨床で食事指導等に補助的に導入している。

今回、我々は、情報過多の現代社会において、歯科医師、特に小児歯科医が、患者に対してパラチノースをどのように紹介すべきかあるいは、臨床の場で応用することの是非についても検討を加えることを目的とし、パラチノースの認知度、購入経験、等を含む間食についてのアンケート調査を行なった。

対象は、演者らが管理をしている福岡市西区の幼稚園（年２回の検診、歯みがき指導実施）及び保育園（年１回の検診、講演実施）に通園する園児の保護者とした。

198名の園児の保護者から、142名の有効な資料をえることができた。保育園と幼稚園を齲蝕予防に関心の高いグループと低いグループの２群に分け種々の項目について比較し分析・検討を加え興味ある知見をえた。

全般的に、パラチノースの間食への導入希望度は高かった。しかし、齲蝕予防に関心の高いグループは、パラチノースに対して関心はあるのだが、実際、子供に“おやつ”として与えるには慎重な姿勢をとっていた。